

美 展覧会「九谷の現在」

会期 9月6日(金)～10月14日(月・祝)

名工選「NEXT九谷」

九谷焼の伝統的な技巧や精巧さを継承しながらも、新たな展開を切り開く作品を展示します。

時間 9時～17時(最終入館は16時30分まで)

会場 浅蔵五十吉美術館(能美市泉台町南1)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

入館料 一般430円、75歳以上320円、高校生以下無料

カラフル・オーナメント・オブジェ・クタニ

表現性を追求した九谷焼作家の立体作品を展示します。

時間 10時～17時(最終入館は16時30分まで)

会場 九谷セラミック・ラボラトリー(若杉町A91)

休館日 水曜日

入館料 一般300円、高校生以下150円

◇記念トークセッション「表現する九谷」

要申し込み

とき 9月16日(月・祝)15時～17時

会場 九谷セラミック・ラボラトリー

定員 50人 参加費 無料



巡 九谷さんぽ

学生ボランティアと九谷焼の産地を楽しく巡り歩きます(荒天中止、申し込み不要)。

①能美コース

とき 9月7日～10月5日の毎週土曜日14時～16時

集合場所 浅蔵五十吉美術館

コース 九谷陶芸村各所

定員 各10人 参加費 無料

②小松コース

とき 10月12日(土)14時～16時

集合場所 九谷セラミック・ラボラトリー

コース 若杉町、八幡周辺の工房など

定員 10人 参加費 無料

郷 九谷饗宴

小松市・能美市の自然、文化、歴史を凝縮したプレミアムな食事会を開催。料理人と九谷焼作家がその日限りの食事を提供します。

①九谷よこちよ

「美味しく九谷を楽しもう！」をテーマに、石川・福井の飲食店が逸品を持ち寄った屋台が並びます。

とき 9月21日(土)、22日(日)11時～15時 ※荒天中止

ところ 能美市九谷焼資料館前駐車場(能美市泉台町56)

②那谷・天外の饗宴

要申し込み

那谷寺を舞台に、九谷・声楽・料理が一夜限りのコラボレーションを果たします。

とき 9月29日(日)17時～20時

ところ 那谷寺

定員 20人

参加費 50,000円

③Y×Y×YArn

要申し込み

九谷焼作家 吉田幸央と料理人 米田裕二による1日限りの食事会。

とき 9月28日(土)ランチ：12時～15時、ディナー18時30分～21時30分

ところ SHÓKUDŌ YArn(吉竹町1-37-1)

定員 各11人

参加費 ランチ：10,000円、ディナー：20,000円(飲み物代別)

知 シンポジウム

「KUTANIと加賀の国1200年」

要申し込み

能美市・小松市のイメージの要となる「九谷焼」を地域ブランドとしていかに世界に発信するべきか、九谷焼作家や識者が今後の方向性を展望します。

とき 9月15日(日)14時～17時30分

ところ こまつ芸術劇場うらら小ホール

定員 250人 入場料 無料

申し込み Kutanism公式サイトから

問い合わせ Kutanism実行委員会事務局(観光文化課内)

☎24・8076

◀Kutanism公式サイト

http://kutanism.com/



クタニズムとは

クタニズムは、日本を代表する伝統工芸「九谷焼」の産地、小松市と能美市が共同で初開催する祭典です。

古代から脈々と受け継がれてきた思想・哲学や、さまざまな自然の恩恵、時代の価値観や美意識をかけ合わせ、産地の総合芸術祭として「九谷焼/KUTANI」を世界に向けて発信します。

クタニズム趣旨

北陸新幹線が金沢市から県南部の加賀地方・福井県に延伸開業する2023年は、加賀立国1200年にあたる年です。加賀地方に位置する小松市と能美市は、石川が世界に誇る伝統工芸・九谷焼の産地であり、この大きな節目の年を世界に羽ばたくチャンスと捉えています。

クタニズムはこのような背景をもとに生まれた一大プロジェクト。両市が協力して地域資源を活用し、「九谷焼/KUTANI」の世界発信と地域ブランド化に向け、様々な取り組みを進めていきます。

Interview



「九谷の現在」総合監修 東京藝術大学大学美術館 館長・教授 秋元 雄史さん

このたび、小松市と能美市において「九谷の現在」をテーマにした展覧会を開催いたします。九谷焼は、石川県に広域的に存在する焼物で、360年以上の歴史を持ち、様々な技法や絵付け様式によって発展し、今日に至っています。

「九谷の現在」をテーマにした展覧会では、小松市の九谷セラミック・ラボラトリーと能美市の浅蔵五十吉美術館の2つの会場で、九谷焼の現在を概観し、伝統と個性が混ざり合う九谷焼の今日の姿を紹介します。

展覧会は二部構成で、一つ目は、「表現する九谷」と題して、九谷セラミック・ラボラトリーでは、これまでの技法や様式を自らの個性や表現に引きつけて制作する作家、窯元の作品を紹介します。二つ目は、「継承の九谷」と題して、能美市の浅蔵五十吉美術館で、伝統を引き継ぎつつ、緩やかに九谷の魅力を広げてきた作家、窯元の作品を紹介します。

ともに現代の九谷を代表する作家たちや窯元の作品が並びます。改めて技法の多様さ、色彩の豊かさ、形態のユニークさなどを感じることができるでしょう。「こんなに幅広い作風が存在するのか」。こんな感想を持たれることでしょうか。現代の九谷をぜひお楽しみください。